

# iDRAC サービスモジュール 2.0 インストールガイド



# メモ、注意、警告



**メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。



**注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。



**警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

**著作権 © 2014 Dell Inc. 無断転載を禁じます。** この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell™、およびデルのロゴは、米国および / またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2014 - 09

Rev. A00

# 目次

<b>1 はじめに.....</b>	<b>7</b>
本リリースの新機能.....	7
iDRAC サービスモジュール監視機能.....	8
オペレーティングシステム情報.....	8
オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケー ション.....	8
自動システムリカバリ機能.....	8
Windows Management Instrumentation プロバイダ.....	9
自動テクニカルサポートレポート収集.....	9
NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備.....	10
対応機能 – オペレーティングシステムマトリックス.....	10
Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存.....	11
ソフトウェア可用性.....	11
iDRAC サービスモジュールのダウンロード.....	12
デルサポートサイトからの文書へのアクセス.....	12
ソフトウェアライセンス契約.....	13
その他の必要マニュアル.....	13
<b>2 インストール前のセットアップ.....</b>	<b>14</b>
インストール要件.....	14
対応オペレーティングシステム.....	15
対応プラットフォーム.....	16
システム要件.....	17
<b>3 Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....</b>	<b>18</b>
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモ ジュールのインストール.....	18
サイレントインストール.....	19

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールコンポーネントの変更.....	20
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールの修復.....	20
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	21
製品 ID を使用した無人アンインストール.....	21
追加 / 削除機能を使用したアンインストール.....	21

## **4 対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール..... 22**

Linux オペレーティングシステムのプレインストール要件.....	22
Linux インストールの依存性.....	23
Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....	24
サイレントインストール.....	24
Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	25
アンインストールスクリプトを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	25
RPM コマンドを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	26

## **5 VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール..... 27**

vSphere CLI の使用.....	27
VMware vSphere Management Assistant の使用.....	28
VMware Update Manager (VUM) の使用.....	29
Power CLI の使用.....	30

## **6 Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール..... 32**

実行中システムにおける Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール.....	32
---	----

XenServer インストール中における Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール.....	33
---	----

## 7 iDRAC サービスモジュールの設定..... 35

iDRAC ウェブインタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定.....	35
RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定.....	36
WSMAN からの iDRAC サービスモジュールの設定.....	36

## 8 よくあるお問い合わせ (FAQ) ..... 38

iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、Open Manage Server Administrator をアンインストールする必要がありますか?.....	38
システムに iDRAC サービスモジュールがインストールされていることを確認する方法を教えてください。.....	38
システムにインストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認する方法を教えてください。.....	39
iDRAC サービスモジュールをインストールするために必要な最低許レベルは何ですか?、.....	39
iDRAC サービスモジュールをインストールしようとする、このサーバーはサポートされていません というエラーメッセージが表示されます。対応サーバーの詳細について『ユーザズガイド』を参照した後は、どうすればよいですか?.....	39
USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーが正しく設定されていても、iDRAC サービスモジュールは OS to iDRAC パススルーチャネルを使用して iDRAC と通信できません というメッセージが OS ログに表示されます。なぜですか?.....	40
iDRAC サービスモジュールをインストールしようとする、このオペレーティングシステムがサポートされていないというエラーメッセージが表示されます。.....	41
VMware ESXi サーバーから iDRAC サービスモジュールをアンインストールするときに、Vsphere クライアントで仮想スイッチが「vSwitchiDRACvusb」、ポートグループが「iDRAC Network」として命名されていることが表示されます。削除するにはどうすればよいですか?.....	41

複製された LifeCycle ログはオペレーティングシステムのどこにありますか? .....	42
Linux インストール中にインストールする必要がある Linux 依存パッケージまたは実行可能プログラムとは何ですか?.....	42

**9 Linux インストーラパッケージ..... 43**

# はじめに

本ガイドは、サポートされるオペレーティングシステムで iDRAC サービスモジュールをインストールする方法についての情報とステップバイステップ手順を説明します。

Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) サービスモジュールは、第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバーにインストールすることができる、オプションの軽量ソフトウェアアプリケーションです。iDRAC サービスモジュールは、iDRAC インタフェース（グラフィカルユーザーインタフェース（GUI）、RACADM CLI、および Web Service Management（WSMAN））を追加のモニターデータで補完します。モジュールの機能は、インストールされる機能、およびお使いの環境固有の統合ニーズに応じて、対応オペレーティングシステム上で設定することができます。

iDRAC サービスモジュールアーキテクチャは IP ソケット通信を使用し、追加のシステム管理データ（OS/ デバイスドライバ）を iDRAC に提供します。また、OS 標準インタフェースを介したシステム管理データへのアクセスを持つ 1 対多コンソールも提供します。

## 本リリースの新機能

- 第 13 世代の Dell PowerEdge サーバーのサポート。対応プラットフォームのリストは、[対応プラットフォーム](#)を参照してください。
- Windows Management Instrumentation (WMI) 管理プロバイダ
- オペレーティングシステム (OS) およびネットワーク情報の共有
- Non-Volatile Memory Express (NVMe) Peripheral Component Interconnect Express (PCIe) ソリッドステートデバイス (SSD) の削除準備
- 自動テクニカルサポートレポート (TSR) OS ログ収集

# iDRAC サービスモジュール監視機能

次のサービスが提供されます。

- [OS 情報](#)
- [Lifecycle Controller ログのオペレーティングシステムへの複製](#)
- [自動システムリカバリ](#)
- [ストレージデータを含む Windows Management Instrumentation プロバイダ](#)
- [自動テクニカルサポートレポート収集](#)
- [NVMe SSD デバイスの取り外し準備](#)

## オペレーティングシステム情報

Server Administrator は現在、オペレーティングシステム情報およびホスト名を iDRAC と共有しています。iDRAC サービスモジュールは、ホスト OS 名、サーバーホスト IP アドレス情報、OS バージョン、完全修飾ドメイン名 (FQDN) といった同様の情報を iDRAC に提供します。また、ホスト OS 上のネットワークインタフェースも表示されます。このモニタ機能はデフォルトで有効で、Server Administrator がホスト OS にインストールされていても使用することができます。

## オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション

Lifecycle Controller (LC) のログを OS ログに複製します。ターゲットとしての OS ログオプションを持つすべてのイベント (アラートページ、または同等の RACADM / WSMAN インタフェース内) が、iDRAC サービスモジュールを使用して OS ログ内に複製されます。これは、Server Administrator によって実行されるシステムイベントログ (SEL) レプリケーションに似ています。

OS ログに含まれる一連のデフォルトのログは、SNMP トラップ/アラート用に設定されるログと同じです。iDRAC サービスモジュールがインストールされた後に LC ログに記録されるイベントのみが OS ログに複製されます。Server Administrator がインストールされている場合は、OS ログ内での重複 SEL エントリを避けるため、モニタ機能が無効になります。

## 自動システムリカバリ機能

自動システムリカバリ機能は、ハードウェア障害発生時にサーバーをリセットするために使用されるハードウェアベースのタイマーで、再起動、パワーサイクル、指定時間経過後の電源オフなどの自動システムリカバリ操作を実行すること

ができます。この機能が使用できるのは、オペレーティングシステムのウォッチドッグタイマーが無効になっているときだけです。Server Administrator がインストールされている場合は、重複ウォッチドッグタイマーを避けるためにモニタ機能が無効になります。

## Windows Management Instrumentation プロバイダ

iDRAC サービスモジュールと共に提供される Windows Management Instrumentation (WMI) プロバイダは、Windows Management Instrumentation (WMI) を介してハードウェアデータを公開します。WMI は、オペレーティングシステムインタフェースを提供する Windows ドライバモデルに対する拡張の一式で、これを介して計装コンポーネントが情報と通知を提供します。WMI は、サーバーハードウェア、オペレーティングシステム、およびアプリケーションを管理するための Distributed Management Task Force (DMTF) からの Web-Based Enterprise Management (WBEM) および Common Information Model (CIM) 規格の Microsoft の実装です。WMI プロバイダは、Microsoft System Center などのシステム管理コンソールとの統合に役立ち、Microsoft Windows サーバーを管理するためのスクリプト記述を可能にします。

## 自動テクニカルサポートレポート収集

iDRAC のテクニカルサポートレポート (TSR) 機能は、ハードウェア、OS、および関連するアプリケーションデータについての情報を収集し、それを圧縮します。現在、TSR を生成するには OS Collector ツールを手動で実行する必要がありますが、iDRAC サービスモジュール 2.0 を使用することにより、OS Collector ツールが関連する OS およびハードウェア情報を自動的に収集します。自動サポートログ収集には、TSR を使用した OS およびアプリケーション情報収集が含まれます。

収集プロセスが自動化されるため、iDRAC サービスモジュールを使用することによってテクニカルサポートレポートを収集するための手順の数が削減されます。



**メモ:** この機能は、対応 Microsoft および Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムでの iDRAC サービスモジュール 2.0 のインストール時に、デフォルトで使用可能になります。この機能を無効にすることはできません。



**メモ:** CentOS では、自動テクニカルサポートレポート収集機能はサポートされていません。

## NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備


Non-Volatile Memory Express (NVMe) Peripheral Component Interconnect Express (PCIe) ソリッドステートドライブ (SSD) は、システムをシャットダウンまたは再起動することなく取り外すことができます。デバイスを取り外しているときは、データの損失を防ぐために、そのデバイスに関連付けられているすべてのアクティビティを停止する必要があります。データの損失を防ぐには、すべてのデバイスに関連付けられたバックグラウンドアクティビティを停止する取り外し準備オプションを使用してください。その後、NVMe PCIe SSD を物理的に取り外すことができます。


## 対応機能 – オペレーティングシステムマトリックス

次のリストは、対応機能とオペレーティングシステムのリストです。

	機能	オペレーティングシステム		
		Microsoft Windows	Linux	仮想化
第 12 世代および第 13 世代	OS 情報の共有	はい	はい	はい
第 12 世代および第 13 世代	LC ログレプリケーション	はい	はい	はい
第 12 世代および第 13 世代	自動システムリカバリ/ウォッチドッグ	はい	はい	はい
第 13 世代	Windows Management Instrumentation プロバイダ	はい	いいえ	いいえ
第 13 世代	iDRAC を使用した NVMe	はい	はい	いいえ

	デバイスの取り外し準備			
第 13 世代	自動テクニカルサポートレポート OS 収集	はい	はい	いいえ

 **メモ:** WMI (Windows Management Instrumentation) プロバイダ、iDRAC を使用した NVMe デバイスの取り外し準備、テクニカルサポートレポート OS 収集の自動化などの新機能は、最小ファームウェアバージョン 2.00.00.00 以降を持つ第 13 世代の Dell PowerEdge サーバーのみでサポートされています。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュールによってサポートされているプラットフォームのリストに関しては、[対応オペレーティングシステム](#)を参照してください。

## Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存

システム内に、Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの両方を共存させることができます。iDRAC サービスモジュールのインストール中にモニタ機能を有効にした場合、インストールが完了した後に iDRAC サービスモジュールが Server Administrator の存在を検知し、重複しているモニタ機能一式を無効にします。iDRAC サービスモジュールは Server Administrator とその機能をポーリングし続けます。Server Administrator が停止した場合は、常にそれぞれの Server Administrator サービスモジュールが有効になります。

## ソフトウェア可用性

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、次から利用できます。

- 『Systems Management Tools and Documentation (SMTD)』 DVD
- サポートサイト – [dell.com/support](http://dell.com/support)

# iDRAC サービスモジュールのダウンロード

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、[dell.com/support/home](https://dell.com/support/home) からダウンロードできます。

## デルサポートサイトからの文書へのアクセス

必要なドキュメントにアクセスするには、次のいずれかの方法で行います。

- 次のリンクを使用します。
  - すべてのエンタープライズシステム管理マニュアル - [dell.com/softwaresecuritymanuals](https://dell.com/softwaresecuritymanuals)
  - エンタープライズシステム管理マニュアル – [dell.com/openmanagemanuals](https://dell.com/openmanagemanuals)
  - リモートエンタープライズシステム管理マニュアル – [dell.com/esmmanuals](https://dell.com/esmmanuals)
  - OpenManage Connections エンタープライズシステム管理マニュアル – [dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement](https://dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement)
  - Serviceability Tools マニュアル – [dell.com/serviceabilitytools](https://dell.com/serviceabilitytools)
  - クライアントシステム管理マニュアル – [dell.com/clientsystemsmanagement](https://dell.com/clientsystemsmanagement)
  - OpenManage Connections クライアントシステム管理マニュアル – [dell.com/connectionsclientsystemsmanagement](https://dell.com/connectionsclientsystemsmanagement)
- Dell サポートサイトにアクセスします。
  - a. [dell.com/support/home](https://dell.com/support/home) にアクセスします。
  - b. **全般サポート** セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ** をクリックします。
  - c. **ソフトウェアとセキュリティ** グループボックスで、次の中から必要なリンクをクリックします。
    - **エンタープライズシステム管理**
    - **リモートエンタープライズシステム管理**
    - **Serviceability Tools**
    - **クライアントシステム管理**
    - **接続クライアントシステム管理**

- d. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
  - 検索ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

## ソフトウェアライセンス契約

iDRAC サービスモジュールのサポートされるバージョンのオペレーティングシステム向けソフトウェアライセンスは、インストーラに含まれています。license\_agreement.txt ファイルをお読みください。メディア上にファイルをインストールまたはコピーすることにより、license\_agreement.txt ファイルの条件に同意したものと見なされます。

## その他の必要マニュアル

このガイド以外にも、デルサポートサイト [dell.com/support/home](https://dell.com/support/home) で入手できる次のガイドにアクセスできます。

- 『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』には、iDRAC の設定と使用についての詳細が記載されています。
- 『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』では、Racadm コマンドラインユーティリティの使い方についての情報を提供します。
- 『Dell Update Packages ユーザーズガイド』は、システムアップデート対策の一環としての Dell Update Packages の入手方法と使い方を説明しています。
- 『Dell Event Messages Reference ガイド』には、システムコンポーネントを監視するファームウェアおよびその他エージェントによって生成されるイベントとエラーについての情報を提供します。
- 『Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェースガイド』は、Management (WS-Man) Management プロトコルのために Web サービスを活用するための情報と例を提供します。

# 2

## インストール前のセットアップ

iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、次の条件を確認します。

- 第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバー。対応プラットフォームのリストは、[対応プラットフォーム](#)を参照してください。
- 最小ファームウェアバージョン - iDRAC7 1.57.57 以降、および iDRAC8 2.00.00.00 以降。



**メモ:** iDRAC7 1.5x.5x に iDRAC サービスモジュール 2.0 をインストールする場合、iDRAC サービスモジュール 2.0 によって提供される新機能は使用できませんが、iDRAC サービスモジュール 1.0 の機能を使用することができます。

- オペレーティングシステムのインストール手順をお読みください。
- 該当するリリースノートファイル、および『システムソフトウェアサポートマトリクス』をお読みください。
- インストール要件を読み、ご使用のシステムが最小要件を満たしていることを確認してください。
- iDRAC サービスモジュールアプリケーションをインストールする前にシステムで実行されているすべてのアプリケーションを終了してください。



**メモ:** iDRAC サービスモジュール 2.0 の新機能は、第 13 世代以降の Dell PowerEdge サーバーで使用できます。

## インストール要件

本項では、iDRAC サービスモジュールの一般的な要件について説明し、対応オペレーティングシステムおよび基本的なシステム要件についての情報を提供します。

### Windows

- Microsoft Windows Server 2008 x64 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、Windows 2012、Windows 2012 R2 オペレーティングシステム

- システム管理者特権。

## Linux

- Red Hat Enterprise Linux 6.5、Red Hat Enterprise Linux 7、SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3 オペレーティングシステム



**メモ:** オペレーティングシステム固有の必要条件がインストール手順として記載されています。



**メモ:** iDRAC サービスモジュールは、ユーザーインターフェースを使用してインストールできます。このインストーラはサイレントインストール方法もサポートしています。

## 対応オペレーティングシステム

iDRAC サービスモジュールのサポートは、次の 64 ビットオペレーティングシステムに対応しています。

- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1
- Microsoft Windows 2012
- Microsoft Windows 2012 R2
- Red Hat Enterprise Linux 6.5
- Red Hat Enterprise Linux 7
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3
- VMware ESXi 5.1 U2
- VMware ESXi 5.5 U2
- Citrix XenServer 6.2 SP1
- CentOS 5.9\*
- CentOS 6.5\*

\* – iDRAC サービスモジュールは CentOS バージョン 5.9 および 6.5 にインストールすることができます。デルが CentOS に対して提供するのは限定サポートのみです。CentOS のサポートの詳細に関しては、CentOS コミュニティにお問い合わせください。

対応オペレーティングシステムについての情報は、[dell.com/support/home](http://dell.com/support/home) で『システムソフトウェアサポートマトリクス』を参照してください。

## 対応プラットフォーム

iDRAC サービスモジュール 2.0 は、第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバーをサポートします。サーバーはそのタイプ、パフォーマンス、世代、および使用されるプロセッサによって分類されます。


サーバータイプ	詳細		
	全体的なパフォーマンス	世代	プロセッサ
ラック = R	1~5 – ローエンドサーバー	2 – 第 12 世代	0 – Intel プロセッサ
タワー = T			
モジュラー = M	5~10 – ハイエンドサーバー	3 – 第 13 世代	5 – AMD プロセッサ

例えば、**M 820** は、Intel プロセッサを使用するハイエンドの第 12 世代 Dell PowerEdge モジュラーサーバーです。

次に、iDRAC サービスモジュールでサポートされているプラットフォームのリストを示します。

第 12 世代 Dell PowerEdge サーバー	第 13 世代 Dell PowerEdge サーバー
M820	R730
M620	R730 XD
M520	R630
M820 – VRTX	T630
M620 – VRTX	
M520 – VRTX	
M420	

R320
R420
R520
R620
R720
R720 XD
R820
R920
T320
T420
T620

 **メモ:** iDRAC サービスモジュール 2.0 の新機能は、最小ファームウェアバージョンが 2.00.00.00 以降の第 13 世代 Dell PowerEdge サーバーのみでサポートされます。

## システム要件

- 対応オペレーティングシステムのいずれか。対応オペレーティングシステムの詳細に関しては、[対応オペレーティングシステム](#)を参照してください。
- 最低 2GB の RAM。
- 最低 512MB の空きハードディスクドライブ容量。
- システム管理者権限。
- TCP/IPv 4 接続。

# Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュールは、デフォルトでサポートされているオペレーティングシステムにすべての機能をインストールし、すべての機能を有効にします。

## Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

サポートされているオペレーティングシステム向けの iDRAC サービスモジュールインストーラは、『Systems Management Tools and Documentation』DVD に収録されています。また、[dell.com/support/home](http://dell.com/support/home) から iDRAC サービスモジュールインストーラをダウンロードすることもできます。

適切なコマンドラインスイッチを使用して、手動または自動インストールのいずれかの操作を実行することができます。iDRAC サービスモジュールは、OpenManage Essentials (OME) などのコンソールを使用した **プッシュ** メカニズムを使ってインストールできます。

1. **SYSMGMT** → **ISM** → **Windows** と参照して、`iDRACSvcMod.msi` を実行します。  
iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザードが表示されます。
2. **次へ** をクリックします。  
ライセンス契約が表示されます。
3. ソフトウェアライセンス契約を読んで、**ライセンス契約の条件に同意します** を選択してから、**次へ** をクリックします。
4. 次のオプションから **セットアップタイプ** を選択し、**次へ** をクリックします。

- **標準** - すべてのプログラム機能がインストールされます（必要なディスク容量は最大）。
- **カスタム** - インストールするプログラム機能と場所を選択します（上級ユーザー推奨）。

利用できるオプションは次のとおりです。

- オペレーティングシステム情報
- 自動システムリカバリ
- Lifecycle ログレプリケーション
- WMI オプション経由のデータの監視

プログラムのインストール準備完了が表示されます。

5. **インストール** をクリックして、インストールを続行します。  
**戻る** をクリックしてプリファランスを変更することもできます。

これで iDRAC サービスモジュールが正常にインストールされました。

6. **終了** をクリックします。

## サイレントインストール

iDRAC サービスモジュールは、インタラクティブなコンソールを使用せずにバックグラウンドのサイレントインストールでインストールすることができます。

- サイレントインストールを使用して iDRAC サービスモジュールをインストールするには、コマンドプロンプトに `msiexec /i iDRACSvcMod.msi /qn` と入力します。
- インストールログを生成するには、コマンド `msiexec /i iDRACSvcMod.msi /L*V <logname with the path>` を入力します。
- サポートされている言語でユーザーインターフェースを表示するには、コマンド `msiexec /i iDRACSvcMod.msi TRANSFORMS= <locale number>.mst` を入力します。ここでのロケール番号は次のとおりです。

ロケール番号	言語
1031	ドイツ語
1033	英語 (米国)
1034	スペイン語
1036	フランス語
1041	日本語

## Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールコンポーネントの変更

iDRAC サービスモジュールコンポーネントを変更するには、次の操作を実行します。

1. **SYSMGMT** → **iSM** → **Windows** と参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。  
iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザードが表示されます。
2. **次へ** をクリックします。
3. **修正** を選択します。
4. 必要に応じて機能を有効化または無効化し、**次へ** をクリックします。  
インストールの準備完了 画面が表示されます。
5. 処理を続行するには **インストール** をクリックします。  
環境設定を変更するには、**戻る** をクリックします。

これで iDRAC サービスモジュールが正常に変更されました。

6. **終了** をクリックします。

## Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールの修復

故障している、または機能しない iDRAC サービスモジュールコンポーネントを修復する場合は、次の手順を実行します。

1. **SYSMGMT** → **iSM** → **Windows** と参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。  
iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザードが表示されます。
2. **次へ** をクリックします。
3. **修復** を選択し、**次へ** をクリックします。  
インストールの準備完了 が表示されます。
4. 処理を続行するには **修復** をクリックします。  
環境設定を変更するには、**戻る** をクリックします。

これで iDRAC サービスモジュールコンポーネントが正常に修復されました。

5. **終了** をクリックします。

## Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、異なる 2 つの方法でアンインストールできます。


- [製品 ID を使用した無人アンインストール](#)
- [追加 / 削除機能を使用したアンインストール](#)

### 製品 ID を使用した無人アンインストール

`msiexec /x {64DC2DF2-4A02-4DA4-8FA0-30CBE5A5F6B6}` と入力して、製品 ID を使用して iDRAC サービスモジュールをアンインストールします。

### 追加 / 削除機能を使用したアンインストール


コントロールパネルの **追加** または **削除** オプションを使用して、iDRAC サービスモジュールをアンインストールすることができます。これを行うには、**スタート** → **コントロールパネル** → **プログラムと機能** をクリックします。


 **メモ:** iDRACSvcMod.msi の実行後に **アンインストール** を選択してアンインストールすることもできます。


# 対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュール全体は 1 つの Red Hat Package Manager (RPM) にパッケージ化されています。パッケージはシェルスクリプトと一緒に表示され、インストール、アンインストール、または使用可能な機能の有効 / 無効を切り替えることができます。

Linux のインストーラは単一 rpm インストールであるため、細かいインストールサポートはありません。機能の有効 / 無効の切り替えは、スクリプト形式のインストールでのみ可能です。

 **メモ:** インストーラは、すべての iDRAC サービスモジュール対応オペレーティングシステム (Red Hat Enterprise Linux 6、Red Hat Enterprise Linux 7、SUSE Linux Enterprise Server 11、Citrix XenServer 6.2 SP1、VMware ESXi 5.1 U2、および 5.5 U2) の 64 ビットバージョンに対して使用することができます。ESX クラシックはサポートされません。

 **メモ:** Yellowdog Updater, Modified (YUM)、VMware Update Manager (VUM) および Citrix XenServer Supplemental Pack などのリポジトリベースのインストールでは、デフォルトですべての機能が有効になっています。

 **メモ:** CentOS では、自動テクニカルサポートレポートの OS ログ収集機能はサポートされません。

## Linux オペレーティングシステムのプレインストール要件

対応 Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムに iDRAC サービスモジュールをインストールするには、`setup.sh` を実行します。

次のような基本的な機能要件を満たしていることを確認します。

- USBNIC モード用の OS-to-iDRAC パススルー機能がデフォルトで有効になっている。無効になっている場合は、手動で有効にします。
- IPv 4 ネットワークスタックがホストオペレーティングシステムで有効になっている。
- USB サブシステムが有効になっている。
- `udev` が有効になっている。iDRAC サービスモジュールを自動で起動するために必要です。

iDRAC についての詳細に関しては、[dell.com/support/home](https://dell.com/support/home) で『Integrated Dell Remote Access Controller 8 (iDRAC8) バージョン 2.00.00.00 ユーザーズガイド』を参照してください。

## Linux インストールの依存性

次は、インストールを完了するためにインストールする必要がある依存パッケージ / 実行可能ファイルのリストです。


実行可能コマンド	パッケージ名
<code>/sys</code>	fileSystem
<code>grep</code>	grep
<code>cut</code> , <code>cat</code> , <code>echo</code> , <code>pwd</code> ,	coreutils
<code>lsusb</code>	usbutils
<code>find</code>	findutils
シェルスクリプトコマンド	bash
<code>ifconfig</code>	net-tools
<code>ping</code>	lputils
<code>chkconfig</code>	RedHat Enterprise Linux <ul style="list-style-type: none"><li>• <code>chkconfig</code></li></ul> SUSE Linux Enterprise Server <ul style="list-style-type: none"><li>• <code>aaa_base</code></li></ul>


install_initd	RedHat Enterprise Linux <ul style="list-style-type: none"> <li>• redhat-lsb-core</li> </ul> SUSE Linux Enterprise Server <ul style="list-style-type: none"> <li>• insserv</li> </ul>
/etc/init.d/ipmi	OpenIPMI

## Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール


1. インストールできる機能が画面に表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。
  - [1]: ウォッチドッグ計装サービス。
  - [2] Lifecycle ログレプリケーション。
  - [3] オペレーティングシステム情報。
  - [4] すべての機能。


2. 必要な機能をインストールするには、それぞれの機能の番号を入力します。

 **メモ:** コンマでインストールする機能の番号を区切ってください。

 **メモ:** 3つすべての機能をインストールするには、**すべての機能** オプションを選択します。

3. インストールを続行しない場合は、**q** と入力して終了します。

 **メモ:** お使いの Linux オペレーティングシステムに iDRAC サービスモジュールがインストールされているかどうかを識別するには、`/etc/init.d/dcismeng status` コマンドを実行します。iDRAC サービスモジュールがインストールされ実行されている場合は、**実行中** 状態が表示されます。

 **メモ:** `init.d` コマンドの代わりに `systemctl status dcism.service` コマンドを使用して、iDRAC サービスモジュールが Red Hat Enterprise Linux 7 オペレーティングシステムにインストールされているかどうかをチェックします。

### サイレントインストール

iDRAC サービスモジュールは、ユーザーコンソールなしでもバックグラウンドでサイレントにインストールできます。これは、パラメータに `setup.sh` を使って実行できます。

setup.sh を使用するために渡すことができるパラメータは、次の通りです。

パラメータ	説明
-h	ヘルプ：ヘルプを表示します。
-l	インストール：選択した機能をインストールして有効にします。
-x	エクспレス：すべての機能をインストールして有効にします。
-d	削除：iDRAC サービスモジュールコンポーネントをアンインストールします。
-w	自動システムリカバリ：自動システムリカバリ計装サービスを有効にします。
-l	LC ログ：Lifecycle ログレプリケーションを有効にします。
-o	OS 情報：オペレーティングシステムの情報を有効にします。
-a	自動開始：コンポーネントのインストール後にインストールされたサービスを開始します。

## Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次の 2 種類の方法でアンインストールできます。

- [アンインストールスクリプトを使用する](#)
- [RPM コマンドを使用する](#)

### アンインストールスクリプトを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールのアンインストールに使用するスクリプトは dcism-setup.sh です。シェルスクリプトを実行し、d を選択して iDRAC サービスモジュールをアンインストールします。

## RPM コマンドを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、RPM コマンド `rpm-e dcism` をコマンドラインに入力するとアンインストールできます。

# VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール

一部のシステムでは、出荷時に VMware ESXi がインストールされています。これらのシステムのリストについては、[dell.com/support/home](http://dell.com/support/home) で最新の『システムソフトウェアサポートマトリクス』を参照してください。

iDRAC サービスモジュールは、VMware ESXi オペレーティングシステムを実行しているシステムでのインストール用の .zip ファイルとして提供されます。 .zip ファイルは命名規則 **ISM-Dell-Web-2.0.0-<ビルド番号>.VIB-<バージョン>i.zip** に従っています。ここで、<バージョン> は対応 ESXi バージョンです。

対応 ESXi バージョンの zip ファイルは次のとおりです。

- ESXi 5.1 - ISM-Dell-Web-2.0.0-177.VIB-ESX51i.zip
- ESXi 5.5 - ISM-Dell-Web-2.0.0-177.VIB-ESX55i.zip

<http://vmwaredepot.dell.com/> から VMware vSphere コマンドラインインタフェース (vSphere CLI) をダウンロードして、Microsoft Windows または Linux システム上にインストールします。または、VMware vSphere Management Assistant (vMA) を ESXi ホストにインポートできます。

## vSphere CLI の使用

vSphere CLI を使用して VMware ESXi に iDRAC サービスモジュールのソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。

1. ISM-Dell-Web-2.0.0-<bldno>.VIB-<version>i.zip をコピーして、システムのディレクトリにコピーします。
2. ESXi ホスト上のすべてのゲストオペレーティングシステムをシャットダウンし、ESXi ホストをメンテナンスモードに設定します。
3. vSphere CLI を Windows で使用している場合は、vSphere CLI ユーティリティをインストールしたディレクトリに移動します。

vSphere CLI を Linux で使用している場合は、どのディレクトリからでもコマンドを実行できます。

4. 次のコマンドを実行します。

```
VMware ESXi 5.1 の場合 : esxcli --server <IP Address of ESXi 5.1 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>。
```

```
VMware ESXi 5.5 の場合 : esxcli --server <IP Address of ESXi 5.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>。
```



**メモ:** vSphere CLI を Linux で使用している場合、拡張子 .pl は必要ありません。

5. プロンプトが表示されたら、ESXi ホストのルートユーザー名とパスワードを入力します。  
コマンド出力には、成功した、または失敗したアップデートが表示されます。
6. ESXi ホストシステムを再起動します。  
インストールされた VIB の情報を入手または一覧表示するには、`esxcli-server<IP>software vib get` または `software vib list` を使用します。

## VMware vSphere Management Assistant の使用

VMware vSphere Management Assistant を使用すると、管理者と開発者が ESX/ESXi システムを管理するためにスクリプトおよびエージェントを実行できます。詳細に関しては、[vmware.com/support/developer/vima/](http://vmware.com/support/developer/vima/) を参照してください。

1. システム管理者として vMA にログインし、プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
2. ISM-Dell-Web-2.0.0-<bldno>.VIB-<version>i.zip ファイルをシステム上のディレクトリにコピーして解凍します。
3. ESXi ホスト上のすべてのゲストオペレーティングシステムをシャットダウンし、ESXi ホストをメンテナンスモードに設定します。
4. vMA で次のコマンドを実行します。

```
VMware ESXi 5.1 の場合 : esxcli --server <IP Address of ESXi 5.1 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>。
```

VMware ESXi 5.5 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 5.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/ <iDRAC Service Module file>`。

5. プロンプトが表示されたら、ESXi ホストのルートユーザー名とパスワードを入力します。
6. ESXi ホストシステムを再起動します。

上記の手順を完了した後で、次の手順を実行します。

1. 管理ステーションに **Server Administrator Web Server** を別途インストールします。
2. Server Administrator のインストール後、Server Administrator サービスを有効にします。

## VMware Update Manager (VUM) の使用

iDRAC サービスモジュールをインストールするには、VMware Update Manager (VUM) を使用します。

1. 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに VMware vSphere 5.x (vCenter サーバー、vSphere クライアント、および VMware vSphere Update Manager) をインストールします。
2. デスクトップで、VMware vSphere クライアント をダブルクリックして、vCenter サーバーにログインします。
3. vSphere クライアントホストを右クリックして、**新規データセンター** をクリックします。
4. **新規データセンター** を右クリックして、**ホストの追加** をクリックします。画面の表示に従って ESXi サーバーの情報を準備します。
5. 直前の手順で追加された ESXi ホストを右クリックして、**メンテナンスモード** をクリックします。
6. **プラグイン** から **プラグインの管理** → **VMware Update Manager のダウンロード** を選択します (正常にダウンロードされると、ステータスは有効になります)。指示に従って、VUM クライアントをインストールします。
7. ESXi ホストを選択します。 **Update Manager** → **管理者ビュー** → **パッチリポジトリ** → **パッチのインポート** をクリックし、画面の表示に従ってパッチを正常にアップロードします。  
オフラインバンドルが表示されます。
8. **ベースラインおよびグループ** をクリックします。
9. **ベースラインタブ** から **作成** タブをクリックし、ベースライン名を指定してベースラインタイプとして **ホスト拡張** を選択します。

指示に従って残りを完了します。

10. **管理者ビュー** をクリックします。
11. **ベースラインへの追加** (アップロードされたパッチ名に対して) をクリックして、手順 8 で作成したベースライン名を選択します。
12. **コンプライアンスビュー** をクリックします。 **マネージャーの更新** タブを選択します。添付をクリックして手順 8 で作成した **拡張ベースライン** を選択し、指示に従います。
13. **スキャン** をクリックして、**パッチおよび拡張** を選択し (デフォルトで選択されない場合)、**スキャン** をクリックします。
14. **ステージ** をクリックし、作成した **ホスト拡張** を選択し、指示に従います。
15. ステージングが完了したら **修正** をクリックして、指示に従います。  
これで、Server Administrator インストールが完了しました。
16. ホストを再起動します。



**メモ:** VMware Update Manager についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。



**メモ:** iDRAC サービスモジュール を VUM リポジトリ <https://vmwaredepot.dell.com/> からインストールすることができます。

## Power CLI の使用

Power CLI を使用して、iDRAC サービスモジュールをインストールするには、次の手順を実行します。

1. 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに ESXi の対応 PowerCLI をインストールします。
2. ISM-Dell-Web-2.0.0-<bldno>.VIB-<version>i.zip ファイルを ESXi ホストにコピーします。
3. bin ディレクトリに移動します。
4. Connect-VIServer を実行して、サーバーおよび資格情報を提供します。
5. ESXi 5.1 または ESXi 5.5 の対応 vSphere CLI を使用して ESXi ホストにログインし、データストアを作成します。
6. フォルダ **ISM-Dell-Web-2.0.0-<bldno>.VIB-<バージョン>I** を ESXi 5.0 または ESXi 5.5 ホストの **/vmfs/volumes/<データストア名>** ディレクトリに作成します。
7. ESXi 5.0 U1 ホストの ESXi zip ファイルを **/vmfs/volumes/<データストア名>ISM-Dell-Web-2.0.0-<bldno>.VIB-<バージョン>I** ディレクトリにコピーします。
8. 上で指定したディレクトリで zip ファイルを解凍します。

9. Power CLI で次のコマンドを実行します。

```
ESXi 5.1 の場合 Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P  
address>- HostPath /vmfs/volumes/<datastore_name>name>/  
ISM-Dell-Web-2.0.0-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-  
dell-iSM-esxi_2.0.ESXi510-0000-metadata.zip
```

```
ESXi 5.5 の場合 Install-VMHostPatch -VMHost 10.94.171.97 -  
HostPath /vmfs/volumes/<datastore_name>name>/ISM-Dell-  
Web-2.0.0-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-iSM-  
esxi_2.0.ESXi550-0000-metadata.zip
```

10. ESXi ホストを再起動します。
11. `esxcli software vib list|grep -i open` コマンドを実行して、iDRAC サービスモジュールがホストに正常にインストールされたかどうかを確認します。
12. iDRAC サービスモジュールが表示されます。



**メモ:** Power CLI についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。

# Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュールは、Supplemental Pack を使用して Citrix XenServer にインストールされます。Citrix XenServer 用の Supplemental Pack は次の 2 つの方法でインストールできます。

- [実行中のシステム上](#)
- [インストール中](#)

## 実行中システムにおける Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール

実行中のシステムに Citrix XenServer 6.2 向け Supplemental Pack をインストールするには、次の手順を実行します。

1. Supplemental Pack ISO ファイルを CD または DVD にコピーするか、ISO ファイルをサーバーにダウンロードします。

ISO ファイルをダウンロードする場合は、次のように一時ディレクトリに ISO ファイルをマウントしてください。

```
$ mount -o loop <iDRACServiceModule00000-supplemental-pack-filename>.iso /mnt
```

ISO ファイルを CD または DVD にコピーした場合は、それを光学ドライブに挿入して次のコマンドを実行します。

```
$ mount /dev/cdrom /mnt
```

2. Supplemental Pack をインストールします。

```
$ cd /mnt
```

```
$ ./install.sh
```

または

```
$ xe-install-supplemental-pack < iDRACServiceModule-  
supplemental-pack-filename>.iso
```

3. インストールが完了したら、ISO ファイルまたは CD をマウント解除します。

```
$ cd ..
```

```
$ umount /mnt
```

## XenServer インストール中における Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュール のインストール

XenServer のインストール中に Citrix XenServer 6.0 向け Supplemental Pack をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 通常どおりに XenServer のインストールを開始し、画面の指示に従います。
2. XenServer インストールプロセス初期の質問のひとつに Supplemental Pack をインストールするかどうかの質問がありますので、**はい** をクリックしてインストールプロセスを続行します。
3. ベース XenServer イメージのインストール後（システムの処理速度に応じて 5～10 分かかります）に、Supplemental Pack CD を挿入するよう求められます。光学ドライブから XenServer インストール CD を取り出し、Supplemental Pack CD を挿入して、OK をクリックします。iSM Supplemental Pack was found というメッセージが表示されます。インストールを承認するには、**使用** をクリックし、OK をクリックします。



**メモ:** 複数の Supplemental Pack (Citrix の Linux Supplemental Pack またはその他の第三者アプリケーション) がある場合は、任意の順にインストールすることもできますが、Supplemental Pack を最後にインストールすることをお勧めします。

4. Supplemental Pack のインストールが完了すると（システムの処理速度に応じて 2～5 分かかります）、他の Supplemental Pack をインストールするように求められます。他の Supplemental Pack をインストールしない場合は、**省略** をクリックして <Enter> を押します。XenServer が正常にインストールされます。

RPM パッケージのインストール時に RPM-GPG キーに関する警告を避けるには、次のコマンドと同様のコマンドを使用してキーをインポートします。

```
rpm --import<OM DVD マウントポイント>SYSMGMT/srvadmin/  
linux/RPM-GPG-KEY
```

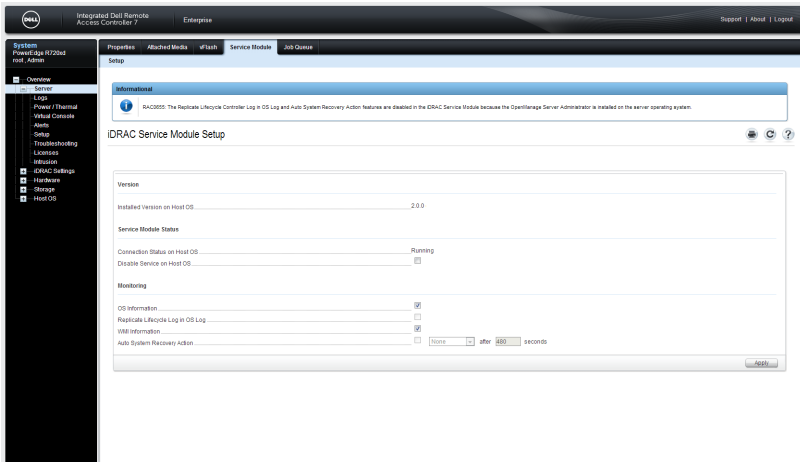
# iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールの設定には次を使用することができます。

- [iDRAC ウェブインタフェース](#)
- [RACADM CLI コマンド](#)
- [WSMAN コマンド](#)

## iDRAC ウェブインタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC ウェブインタフェースから iDRAC サービスモジュールを使用するには、**概要** → **サーバー** → **サービスモジュール** と選択します。




# RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュール、RACADM CLI コマンドを使用してアクセスおよび設定することができます。iDRAC サービスモジュールによって提供される機能のステータスを確認するには、**racadm get idrac.servicemodule** コマンドを使用します。このコマンドにより、iDRAC サービスモジュールの機能とその状態が一覧表示されます。

- OSInfo
- LCLReplication
- WMI 情報
- 自動システムリカバリ処置

機能を設定または構成するには、**racadm set idrac.servicemodule. <feature name> <enabled or disabled>** を使用します。

 **メモ:** リストされた属性または機能の名前の先頭にある # 記号は変更できません。

RACADM から iDRAC サービスモジュールを使用するには、**dell.com/support/home** で入手できる『RACADM コマンドライン iDRAC 8 および CMC 向けリファレンスガイド』の **サービスモジュール** グループにあるオブジェクトを参照してください。

# WSMAN からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールは、次のコマンドを使って WSMAN 経由でアクセスおよび設定できます。

iDRAC サービスモジュールを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
winrm i ApplyAttributes http://schemas.dmtf.org/wbem/wscim/1/cim-schema/2/root/dcim/DCIM_iDRACCardService?
CreationClassName=DCIM_iDRACCardService
+Name=DCIM:iDRACCardService
+SystemCreationClassName=DCIM_ComputerSystem
+SystemName=DCIM:ComputerSystem -u:root -p:calvin -r:https://<Host IP
address>/wsman -SkipCNcheck -SkipCAcheck -encoding:utf-8 -a:basic
```

```
@{Target="iDRAC.Embedded.1";AttributeName="AgentLite.  
1#<feature>";AttributeValue="1"}
```


WSMAN から iDRAC サービスモジュールを使用するには、[dell.com/support/home](https://dell.com/support/home) で入手できる、Web services for Management (WS-Man) 管理プロトコルの活用情報と例が記載された『Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェースガイド』を参照してください。

## よくあるお問い合わせ (FAQ)

本項では、iDRAC サービスモジュールに関する FAQ をリストしています。

### iDRAC サービスモジュールをインストール または実行する前に、**Open Manage Server Administrator** をアンインストールする必要 がありますか?


いいえ。iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、Server Administrator の機能が停止していることを確認してください。

 **メモ:** Server Administrator をアンインストールする必要はありません。

### システムに iDRAC サービスモジュールがイ ンストールされていることを確認する方法を 教えてください。

iDRAC サービスモジュールがインストールされているかどうかを確認するには、次の操作を実行します。

- Windows の場合：  
service.msc コマンドを実行します。DSM iDRAC サービスモジュール という名前のサービスがない場合は、サービスのリストから探します。
- Linux では、次の手順を実行します。  
/etc/init.d/dcismeng status を実行します。iDRAC サービスモジュールがインストール、実行されている場合は、表示状態は **実行中** となります。

 **メモ:** init.d コマンドの代わりに systemctl status dcismeng.service コマンドを使用して、iDRAC サービスモジュールが Red Hat Enterprise Linux 7 オペレーティングシステムにインストールされているかどうかチェックします。

## システムにインストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認する方法を教えてください。

システム内の iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認するには、**スタート**→**コントロールパネル**→**プログラムと機能**をクリックします。インストールされた iDRAC サービスモジュールのバージョンが **バージョン** タブにリストされます。また、**マイコンピュータ**→**プログラムのアンインストールまたは変更**に移動してバージョンをチェックすることもできます。

## iDRAC サービスモジュールをインストールするために必要な最低許可レベルは何ですか？

iDRAC サービスモジュールをインストールするには、管理者レベルの権限を持っている必要があります。

## iDRAC サービスモジュールをインストールしようとする時、このサーバーはサポートされていませんというエラーメッセージが表示されます。対応サーバーの詳細について『ユーザーズガイド』を参照した後は、どうすればよいですか？

iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、iDRAC サービスモジュールのインストール先であるサーバーまたはシステムが第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバーであることを確認してください。また、64 ビットシステムを使用していることも確認します。

## USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーが正しく設定されていても、iDRAC サービスモジュールは OS to iDRAC パススルーチャンネルを使用して iDRAC と通信できませんというメッセージが OS ログに表示されます。なぜですか？

iDRAC サービスモジュールは、USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーを使用して iDRAC との通信を確立します。時折、正しい IP エンドポイントが設定された USBNIC インタフェース経由でこの通信が確立されないことがあります。これは、ホスト OS のルーティングテーブルに同じ宛先マスクに対する複数のエントリが含まれており、USBNIC 宛先がルーティング順序の最初にリストされていないときに発生する可能性があります。

送信先	ゲートウェイ	Genmask	フラグ	メトリック	参照	インタフェースの使用
デフォルト	10.94.14.8.1	0.0.0.0	UG	1024	0	0 em1
10.94.14.8.0	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
リンクローカル	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
リンクローカル	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 enp0s20u12u3

この例では、**enp0s20u12u3** が USBNIC インタフェースで、リンクローカル宛先マスクが繰り返され、USBNIC が順序の最初になっていません。このため、OS to iDRAC パススルー経由の iDRAC サービスモジュールと iDRAC 間における接続問題が発生する結果となります。接続問題のトラブルシューティングを行うには、次の手順のいずれかを実行することができます。

iDRAC IPv4 アドレス（デフォルトで 169.254.0.1）がホスト OS から到達可能であることを確認します。到達できない場合は、次の手順を実行します。

- 固有の宛先マスクで USBNIC iDRAC アドレスを変更する。

- 不要なエントリをルーティングテーブルから削除し、ホストが iDRAC USBNIC IPv4 アドレスに到達したい時に USBNIC がルートによって選択されるようにします。

**iDRAC サービスモジュールをインストールしよう**とすると、このオペレーティングシステムがサポートされていないというエラーメッセージが表示されます。


iDRAC サービスモジュールをインストールできるのは、対応オペレーティングシステム上のみです。対応オペレーティングシステムについての情報は、[対応オペレーティングシステム](#)を参照してください。

**VMware ESXi サーバーから iDRAC サービスモジュールをアンインストールするとき、Vsphere クライアントで仮想スイッチが「vSwitchiDRACvusb」、ポートグループが「iDRAC Network」として命名されていることが表示されます。削除するにはどうすればよいですか？**

VMware ESXi サーバーでの iDRAC サービスモジュール VIB のインストール中、iDRAC サービスモジュールは、USB NIC モードの OS to iDRAC パススルー経由で iDRAC と通信するための vSwitch およびポートグループを作成します。仮想スイッチ **vSwitchiDRACvusb** とポートグループ **iDRAC ネットワーク** は、アンインストール後も削除されません。手動で削除するには、次の手順のいずれかを実行します。

- vsphere クライアント設定ウィザードに移動してエントリを削除します。
- Esxcli に移動し、次のコマンドを入力します。

ポートグループを削除する	<code>esxcfg-vmknic -d -p "iDRAC Network"</code>
vSwitch を削除する	<code>esxcfg-vswitch -d vSwitchiDRACvusb</code>

 **メモ:** これはサーバーの機能的な問題ではないため、VMware ESXi サーバーに iDRAC サービスモジュールを再インストールすることができます。

## 複製された Lifecycle ログはオペレーティングシステムのどこにありますか?

複製された Lifecycle ログを表示するには、次の手順を実行します。

オペレーティングシステム	場所
Microsoft Windows	イベントビューア → <b>Windows ログ</b> → システムにあります。すべての iDRAC サービスモジュール Lifecycle ログは、 <b>iDRAC Service Module</b> というソース名の下に複製されます。
Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux、CentOS、および Citrix XenServer	<b>/var/log/messages</b>
VMware ESXi	<b>/var/log/syslog.log</b>


## Linux インストール中にインストールする必要がある Linux 依存パッケージまたは実行可能プログラムとは何ですか?

依存パッケージのリストは、[Linux 依存性](#)を参照してください。

# Linux インストーラパッケージ

対応 Linux OS のインストーラパッケージは次の通りです。

対応 Linux オペレーティングシステム	インストーラパッケージ
Red Hat Enterprise Linux 5	<code>SYSMGMT\ism\linux \RHEL5\x86_64\dcism-2.0.0-4.159. 1.e15.x86_64.rpm</code>
Red Hat Enterprise Linux 6	<code>SYSMGMT\ism\linux \RHEL6\x86_64\dcism-2.0.0-4.159. 1.e16.x86_64.rpm</code>
Red Hat Enterprise Linux 7	<code>SYSMGMT\ism\linux \RHEL7\x86_64\dcism-2.0.0-4.159. 1.e17.x86_64.rpm</code>
SUSE Linux Enterprise Server 11	<code>SYSMGMT\ism\linux \SLES11\x86_64\dcism-2.0.0-4.159 .1.sles11.x86_64.rpm</code>

 **メモ:** CentOS バージョン 5.9 および 6.5 オペレーティングシステムには、リストにある任意のインストーラを使用して iDRAC サービスをインストールすることができます。